

今、女子会が熱い！



小西明子

(株)東レ経営研究所 人事部
[101-0041]東京都千代田区神田須田町2-5-2
須田町佐志田ビル3F
部長
専門は経済学。
Akiko_Konishi@tbr.toray.co.jp

www.tbr.co.jp

ネット情報によれば、「女子会」という言葉がマスメディアに取り上げられるようになったのは2008年頃とみられているようです。2010年には「新語・流行語大賞」のベストテンに選ばれました。火付け役は某居酒屋チェーンで、「女子会」の名を冠した女性専用プランメニューの成功が、飲食産業各社に広まっていったといえます。

筆者自身も、最近とみに「女子会」への参加機会が増えました。……といっても、妙齢の女性がお洒落なお店でダイエットとグルメの話題で盛り上がる、華やかな女子会とはやや趣を異にする「管理職女子会」ですが。一つは会社から派遣されて2年間ほど参加した女性管理職ネットワークのテーマ別分科会の仲間たち。グループ研究をまとめるにあたり、アフターファイブの時間をやりくりし、何度も集まって侃々諤々議論したり資料を作成したりするうち、場所を変えて遅い食事を取りながら時間の許す限り議論の続きや情報交換に勤しむ女子会が、毎回のデフォルトになってきました。勉強会を卒業してからも折々に集まっては交流を深めています。もう一つは社内の女性管理職の集まり。3年ほど前から東京の本社で新たに管理職昇格したメンバーのお祝いの会を催すようになり、徐々に近辺の事業所にも声をかけて30名ほどが集まる場となりました。女性管理職が例外中の例外であった頃は、ポツリポツリと昇格するメンバーを先輩たちが誘って数人でヒツリ祝うという感じだったのが、こんなに賑やかに祝える日が来るなんて、まさに隔世の感です。

そもそも、とくに社内で女性だけの集まりというのは、何となく憚られるものがありました。男女機会均等の建前の中で、女性だけが集まって群れているような印象を周囲に与えたくない、という気持ちが無意識に働いていたと思います。それが「女子会」という名前がただけで、何やら世の中から認められたような気分になるから不思議です。「今日は社内の女子会があるので定時に失礼します」なんてサラッと伝えてしまいそ

うです。また、均等法第一世代としても、第二、第三世代の若い女性たちを誘いやすくなりました。大上段に振りかぶって「女性管理職の会をやりましょう」などとお局さんたちから声をかけられたら、若い女性たちは「私たちの頃はもっと大変でねえ」などとお説教されそうな気がして怯んでしまうに違いないのです。でも、「今度社内女子会やりませんか？」ならば、声をかける分にもハードルが少し下がります。

とにかく、集まってみると女子会はなかなか盛況で、世代の違いを超えて実に多彩な話題で盛り上がります。最初は「怖いもの見たさ」で参加したという若手女性管理職たちからも、「思ったより楽しかった」との声が聞かれ、回を重ねるごとに参加者が増えています。普段は会議でも飲み会でも周囲は男性ばかりという状況に慣れきっている女子たちにとって、女子ばかりで話合ってみると、その共感性の高さや、「立場」や「面子」などにこだわらない「話の早さ」など、改めて新鮮に感じる部分も多々あります。普段、男社会で過剰適応していると忘れがちな、女子ならではの強みとか可能性のようなものが見えてくるような気がします。

もちろん、女性だけで集まることの違和感がどうしても抜きがたく、参加しない人もいます。「自分は女性として仕事をやっているつもりはないし、今さら女性だけで語り合う意味がわからない」という声も聞きました。気持ちとしてはわかります。けれど、今は「女子会ブーム」に乗かって、どうしたら私たちがもっと組織のために貢献できるか、後輩の女子たちが不安なく働けて、もっと力を発揮できるようにするために、自分たちの組織はどうあるべきかを語り合うのも良いのではないかと思います。そして、その場での議論を女子会の中だけに閉じ込めずに戦略的に発信して、「すべての人が生き生きと働ける職場づくり」に主体的にかかわっていければ理想的です。お仕着せではない男女共同参画が、そろそろ女子会あたりから沸きあがってきて良い頃ではないでしょうか。